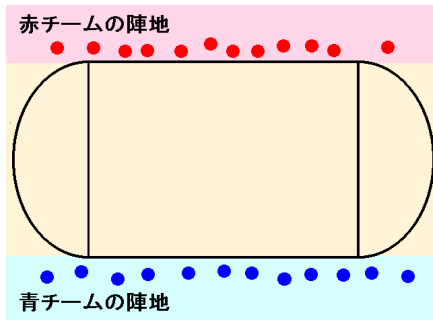


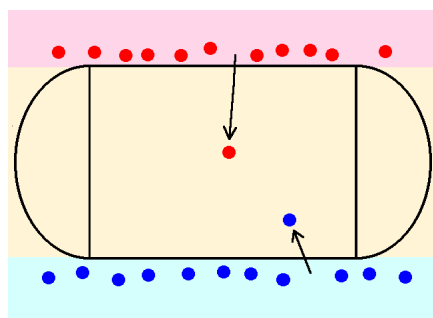
「とりっちく」の遊び方

冬の校庭での遊びといえば、「サッカー」「大なわ」「とりっちく」でした。なかでも、「とりっちく」は、だれでもどこでも活躍できる点で大人気でした。



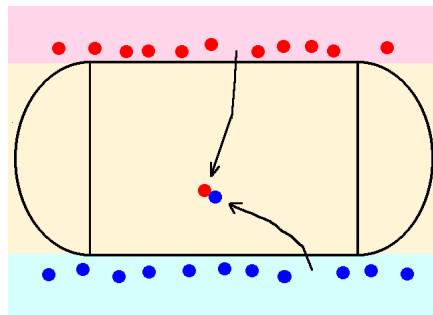
1. 二人組でじゃんけんをして赤チームと青チームに分かれ、校庭のトラックを利用して、それぞれの陣地に集まります。陣地は、トラックの線がコーナーになって消えている部分も延長して左右に広がっているものとします。

中央が戦場で、ここで双方のチームが戦いますが、走り回る場所は敵の陣地も含めて自由自在です。



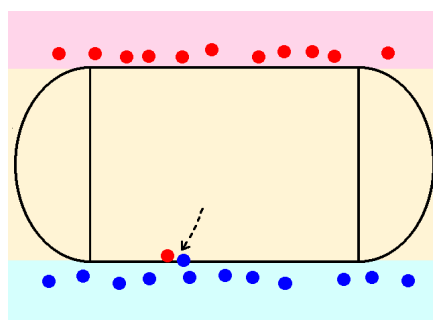
2. 自分の陣地内にいる間は、いつもエネルギーは満タンです。中央の戦場に出ると、時間がたてばたつほどエネルギーは減っていくものと考えてください。陣地にもどれば、また、エネルギーは満タンになります。

今、赤が一人出たのを見て、あとから、青が出ました。この青は赤にタッチすると、つかまえることができます。あとから出たほうが、エネルギーがたくさんあるので強いというのが基本的なルールです。



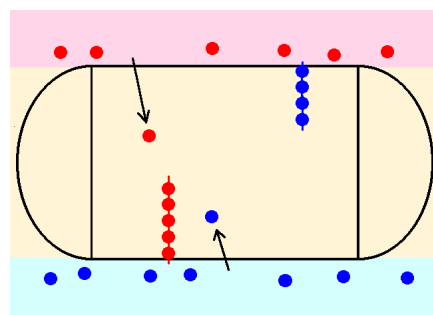
3. 赤は逃げきれずに、青にタッチされたので、青につかまりました。

このゲームは、タッチしたときに、「どちらがあとから出たのか」がわかっていないと勝負になりません。たくさんの子が縦横無尽に走り回っています。陣地を出るときは、だれをつかまえようという目的をもって出ないとわからなくなります。わからないときはタッチをしてはいけません。



4. つかまった赤は、青の陣地に足をつけ、仲間のほうに手を伸ばして赤のタッチを待ちます。この状態で、仲間の赤にタッチしてもらえば、赤の陣地にもどれます。

赤の助けを求めるのに、青の陣地のどこにいるかは、つかまった赤が選べます。



5. 仲間がたくさんつかまると、列は長くなって、助けやすくなります。列が切れているとタッチされたときに助からないので、足や手など体の一部は必ずつながっていないといけません。

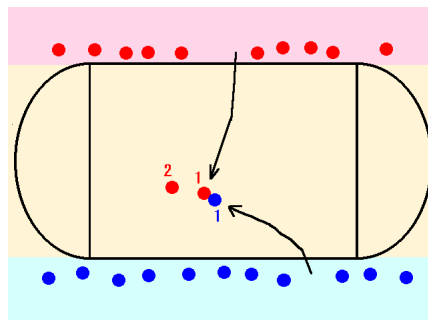
列にタッチする場所は、別に先頭でなくても、途中で一番奥でもかまいません。青の陣地とつながっていた全員が助かります。

ゲームは、どちらかのチームが敵の全員をつかまえるまで続きます。

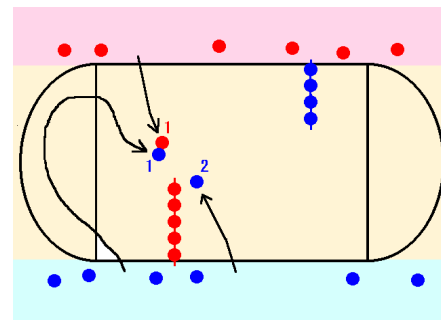
そのほかのルールや注意

ルール 一度出てもどるまでに1つのことしかできません。

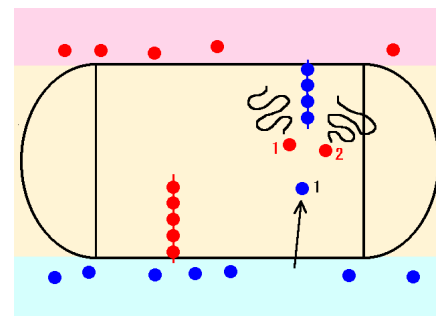
右の図で、青1番は赤1番をつかまえました。赤1番をつれて陣地に歩いてもどりましょう。ついでに赤2番をつかまえることはできません。



赤1番は仲間を助けに出ましたが、長い間、出歩いていた青1番をつかまえてしまいました。青1番をつれて陣地にもどらないといけないので、ついでに仲間を助けるタッチはできません。



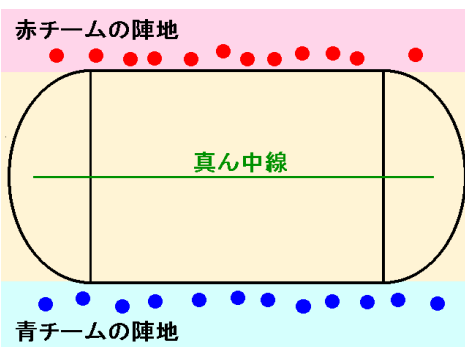
赤1番と2番は、つかまえた青の列の前で救出を防いでいるつもりですが、あとから出た青1番にタッチされるとつかまります。ただし、自分を犠牲にして青の列の救出を防いだことは確かです。



注意 仲間を助けに来た子と、つかまって列につながろうとしている子の区別がつきにくいので、つかまった子はつかまえた子といっしょに歩いて列につながるようにしましょう。

仲間にタッチして助けた子と助けられた子は、自分の陣地にもどるまで安全です。もどる途中でつかまることはありません。わかりやすいようにまとまって歩いてもどるようにしましょう。

これは、敵をつかまえて陣地にもどる場合も同じです。途中で別の敵につかまることはありません。わかりやすいように二人でまとまって歩いてもどるようにしましょう。



上手に対戦できるようになったら、戦場の中央に「真ん中線」を引き、「陣地を一步でも出たら、この真ん中線を踏まないともどれない」というルールを追加します。これにより、出るのに勇気があるようになりますが、敵がつかまやすくなります。

敵の陣地まで入っていくなどの勇気ある行動も試してみましょう。